

今回の展示のみどころ!

旧長谷川治郎兵衛家

長谷川家ゆかりの画家 田南岳璋

たなみがくしやう

4月14日(火)～7月20日(月・祝)

田南岳璋(1876-1928)は松阪出身の日本画家で、数々の展覧会に出品して活躍しました。岳璋は地元松阪の商家長谷川家とも交友関係を持っていました。長谷川家八代元貞(雅号・六有)の末子である田中成章は、明治期に画家として松阪で活動しており、岳璋は成章に絵を学んだとされています。また11代定矩(雅号・可同)は岳璋の支援者の一人とされ、12代元収(雅号・素城)も岳璋に絵を学んだといわれています。本企画展では田南岳璋の作品とあわせて、長谷川家との関わりをご紹介します。



【展示解説】

5/16(土) 7/4(土) 11時より20分程度

【芳名録(大正11年6月14日餅舎にて)】 田南岳璋 画

旧小津清左衛門家

中南勢のやきもの



3月31日(火)～6月28日(日)

三重県の中央に位置する中勢や南勢地域では、さまざまなやきものが製作されてきました。三重県指定伝統工芸品の一つである松阪万古をはじめとして、同じ松阪の射和万古、また津の阿漕焼や伊勢の神路山焼など特徴のあるやきものが見られます。本企画展では、これらのなかから選りすぐりの逸品を集め、中南勢地域のやきもの魅力をご紹介します。



【淡々斎好赤絵皆具】松阪万古・佐久間勝山 作

【展示解説】

5/2(土) 6/6(土) 11時より20分程度

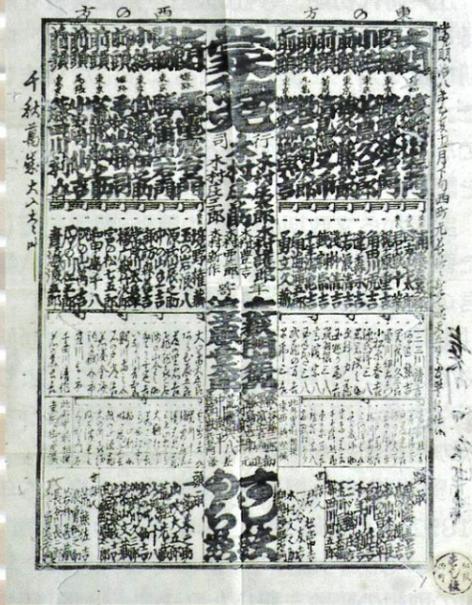
原田二郎旧宅

松阪の相撲興業 4月28日(火)～8月30日(日)

松阪では、明治期の相撲番付から西町の長竹庵跡・百足町(西之庄町)の毘沙門寺・中町の岡寺山継松寺などで相撲が興行されていたことが読み取れます。松阪は第57代横綱三重ノ海の出身地として知られ、実業家原田二郎も大の相撲好きであったといえます。本企画展では、相撲番付などの資料を通して、松阪における相撲人気の高さをご紹介します。

【展示解説】

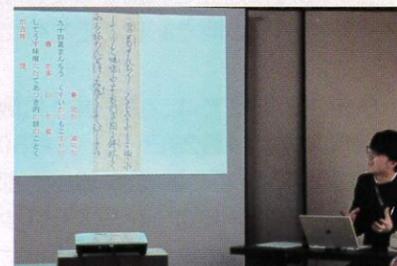
5/23(土) 7/18(土) 11時より20分程度



【相撲番付】(明治8年 長竹庵跡)

イベントのご報告

くずし字講座



旧小津清左衛門家において、「くずし字講座」を開催しました。本講座では、商家に伝わる古文書などを教材として取り上げ、実際の史料に記されたくずし字を読みながら、その内容を理解することを目指しました。

講座は第1回の11月17日に始まり順次、12月15日、1月19日、2月16日、3月16日の計5回、各回とも午前10時からの約1時間半、旧小津清左衛門家の落ち着いた雰囲気の中で、一字ずつ丁寧に文字を読み解きながら、当時の文化や生活の一端に触れていただきました。

教材のひとつに、享保3年(1718)に刊行された『古今名物御前菓子秘伝抄』を使用しました。本書は菓子製法を記した専門書で、当時の菓子づくりの様子を知る貴重な資料です。参加者はくずし字を読み進めながら、材料や製法の記述に強い関心を示していました。

実際の古文書を用いて文字を読み解くことで、江戸時代の記録がどのように書かれ、伝えられてきたのかを理解する機会となり、参加者からも好評を得ました。



【今名物御前菓子秘伝抄】

旧家で聴こう蓄音機の音色-唱歌と童謡-



3月1日、「旧家で聴こう蓄音機の音色-唱歌と童謡-」を開催しました。会場は、歴史ある旧長谷川治郎兵衛家の離れ座敷です。ここで長谷川家に伝わるSPレコードを蓄音機で再生し、往時の音色を聴いていただきました。

とくに童謡・唱歌に焦点を当てて選曲し、懐かしい音楽文化の一端をご紹介します。曲目には「証城寺の狸囃子」や「兎のダンス」などがあり、来場者はレコードの回転音とともに響く温もりある音色に耳を傾け、蓄音機特有の素朴な響きを楽しんでいました。旧家の落ち着いた空間の中で、昔の生活文化に触れることのできる有意義な催しとなりました。

